

令和3年度 事業計画要旨

NPO 法人小児がん・まごころ機構

1. 事業実施の方針

小児がん治癒率は、世界の先進国において約 80%に達しているものの、アジアを含む世界の低・中間所得国では 0~30%にとどまり、その主な原因は、無治療（病院までたどり着けない）、診断の遅れ、誤診や誤った治療、治療の放棄（多くは経済的理由）などと言われています。また根底には、貧困、医療体制の未整備、医療人材の不足及び育成体制の未熟など、深刻な社会問題があることが報告されています。このような背景から、2018年に世界保健機関(WHO)は、国際小児がん学会(SIOP)と共に、「2030年までに世界の小児がんの治癒率を60%以上に上げる」という内容の「小児がん宣言(WHO Global Initiative for Childhood Cancer; 以下 WHO GICC)」を提案し、国連で採択されました。

NPO 法人小児がん・まごころ機構においても、東京本部と佐賀支部を拠点として、これまで国内で継続してきた小児がん長期フォローアップの支援活動をさらに発展させてまいります。また、WHO、SIOP、日本小児がん研究グループ(JCCG)やその他の非営利小児がん支援団体と緊密に連携し、主にアジア小児血液・がん治療研究グループ(以下 APHOG)の活動を支援しながら、小児がん創薬・臨床研究に対しては自前の助成事業を立ち上げることによって、アジア全体の小児がん治癒率向上に貢献していくことを大きな目標として掲げました。

2. 本機構の Vision・Mission について

本機構がどのような団体なのかを広く理解していただくために Vision および Mission（わたしたちの目指すべき世界観および達成すべき使命）を策定します。

*その後の議論を踏まえ、臨時理事会にて以下の通り正式決定いたしましたので、ここに追記します。

Vision

すべての小児がんの子どもたちが、夢と希望をもって人生を送ることができる世界を目指します

Mission

小児がんの子どもたちが、アジアのどこに住んでいても、平等で質の高い医療を受け、生涯にわたり安心して生活していくことのできる持続可能な社会を実現します

3. 具体的実施事業について

【日本国内事業】

WHO GICC を国内において啓発していくとともに、永続的な小児がん長期フォローアップの仕組みの確立のための事業を継続します。

(1) WHO GICC を日本国内で啓発、広報するための活動として主に以下を予定しております。

- ・2021年9月25日(土) 国内における WHO GICC 啓発イベント(Gold September Campaign)
(国立がん研究センター研究所カンファレンス室)
- ・2022年2月13日(日) ICCD 国際小児がんデー・イベント

(ホテルニューオータニ佐賀)

- ・その他講演会やがんサロンイベント等

(2) 令和3年度も厚生労働科学研究費補助金「小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究」(研究代表者 国立成育医療研究センター小児がんセンターセンター長 松本公一氏)より継続して業務を受託する予定となっております。

【日本国内を含むアジア事業】

WHO GICCを進めるため、APHOGの事務局機能を担い、その活動に対する支援を行ってまいります。

また、日本を含むアジア全域での小児がん治癒率向上のため、創薬や臨床研究を選択助成する事業を開始し、助成対象事業を選考する委員会及び事業の有効性を客観的に判断する外部審査委員会を新たに設立いたします。

(1) APHOGの体制確立とその活動に対する支援事業

- ・国際ウェブ会議の支援(年間10回程度)
- ・APHOG国際オンライン会議(年6回~8回)、HP、News Letter発行(年1~2回)
- ・10月SIOP 2021 in Hawaiiでの、APHOG及びSIOP、WHOとの合同ミーティングの支援

(2) 小児がん創薬・臨床研究助成事業の新設

- ・「MOCCアジア小児がん創薬・臨床研究助成」(仮称)の新設
"MOCC Asian Fund for Drug Development and Clinical Study in Childhood Cancer"
- ・「MOCC日本小児がん創薬・臨床研究助成」(仮称)の新設
"MOCC Japan Fund for Drug Development and Clinical Study in Childhood Cancer"

(3) 助成事業に対する内部・外部委員会の設置

- ・「MOCCアジア・日本小児がん創薬・臨床研究助成選考委員会」(仮称)の設置
- ・「MOCC小児がん創薬・臨床研究助成外部審査委員会」(仮称)の設置

(4) WHO GICCのアジアでの啓発・広報活動

- ・2021年10月21-24日 APHOG/SIOP/WHO合同セッション
(第53回国際小児がん学会; ハワイ)
- ・APHOGホームページでの広報

小児がん・まごころ機構は、MISSIONにも定めるように、小児がんの子どもたちが、アジアのどこに住んでいても、平等で質の高い医療を受け、生涯にわたり安心して生活していくことのできる持続可能な社会の実現を目指しております。

わたしたちの活動はすべて、皆さまからの温かいご寄付によって継続できていることに、心より御礼を申し上げます。今後とも団体へのご理解、ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。